

# (お 知 ら せ)



平成22年 3月23日  
日本原子力発電株式会社

## 敦賀発電所構内インクライン付近からの火災の原因と対策について

本日、平成22年3月18日10時42分ごろ、敦賀発電所構内インクライン<sup>※</sup>付近（非管理区域）に敷設されている電線管（樹脂製）から発火していることを確認し、作業員が直ちに消火器で消火しました。

10時57分に公設消防へ通報し、到着した公設消防による現場確認の結果、11時40分に火災と判断され、同時刻に鎮火が確認されました。

なお、火災発生時は、付近でインクラインレール撤去作業による溶断作業を実施していたことを確認しており、今回の火災との関連性も含め、今後、公設消防による現場調査の後、火災に至った原因について調査します。

本事象による周辺環境への放射能の影響はありません。

※インクライン：傾斜面にレールを敷き、動力で台車を動かして、固体廃棄物を積載した車両を発電所から固体廃棄物貯蔵庫へ運ぶための装置。

（平成22年3月18日発表済）

現場調査の結果、火災の発生箇所は溝の中に電線管が敷設されており、落ち葉等が堆積していました。また、落ち葉等の中には溶断作業で発生したと思われるノロ（溶断により発生した高温の鉄くず）が確認されました。

火災発生時には、火災発生箇所の上でインクラインのレール止めボルトの溶断作業を実施しており、その際に発生するノロを金属製の缶で受けるとともに、ノロの落下防止のため、作業員が防火シートで受けていました。

これらのことから火災の原因は、インクラインのレール止めボルトの溶断作業により発生したノロのうち、金属製の缶及び防火シートで回収できなかったものが溝の中に落下し、堆積していた落ち葉等が燃え、電線管に延焼したものと推定しました。

対策として以下のことを行います。

- （1）ノロ飛散防止のため、防火シートにて溶断箇所を囲うように養生します。
- （2）ノロ落下防止のため、溶断箇所下流側に従来より設置していたノロ受け用の金属製の缶に加え、金属製の大きなノロ落下防止用の受けを2重に設置します。
- （3）電線管が敷設されている溝の中にノロが入らないよう金属の板にて養生します。
- （4）火気作業時における安全対策の確認（火気作業パトロール）を強化します。
- （5）当社社員及び協力会社社員に対して、今回の事例を周知するとともに、火気作業における防火対策の再徹底を行いました。

<添付資料>

敦賀発電所構内インクライン付近の火災について

以 上

# 敦賀発電所構内インクライン付近の火災について

